

キヒトデ

【見られた地点：②・③・④】

日本沿岸で最も普通に見られるヒトデのひとつです。大型のヒトデで、幅長は19cmに達するものもあります。潮間帯下部から水深200mまでの岩礁、岩礫底、泥底、砂底の他人工構造物上にも生息します



トゲモミジガイ

【見られた地点：②】

幅長10cm。浅場の砂泥底および岩礁域の砂底に生息します。腕の縁の上側と下側に大きな棘をもっています。体色は上側で黄褐色から暗褐色、口のある下側はやや淡く生息地によって色彩は変異に富んでいます。



モミジガイ

【見られた地点：②・③・④】

幅長6cm。北海道から九州まで分布し、沿岸の砂泥地で最もよく見られるヒトデのひとつです。体形がモミジ葉形で、茶褐色のものと灰青色のものがあります。



スナヒトデ

【見られた地点：②・③・④】

幅長10cm。昼間は砂中に潜っていますが、夜間には長い管足（体の腹側にある細長い足のような管）をオールのように使い思いのほか速く動きます。砂中の小型の貝類などを捕食するため、放流したアサリやハマグリを稚貝を食害することもあります。



クモヒトデ綱

【見られた地点：③・④】

クモヒトデの仲間は2000種ほど知られています。腕は細長く、振り動かしたり、他の生物に絡むこともでき、多様な生活形を有しています。



マナマコ

【見られた地点：①・②・③・④】

全長30cmくらいになるほぼ円筒形のマナコです。日本では食用マナコの代表であって、生食のほか乾燥させた「いりこ」も利用されています。転石の多い海岸の潮間帯下部や潮溜まりなどに生息し、全国各地に分布しています。



サンショウウ二科

【見られた地点：②・③・④】

殻の背側は円錐形、腹側は平たく、殻径4cmほどになります。日本海側では佐渡以南、太平洋側では東京湾以南、九州南部までの潮間帯下部から水深45mくらいまでの砂底に多く生息します。一般的には食用としません。

